

注意点1 右手&左手

ピアノのように指板を叩け！ ボスハンド・タッピング

ここで取り上げているボスハンド・タッピングは、左手をネックの上側から回して、両手で指板をピアノを弾くように叩くテクニックだ。左右交互に叩いて音を出すので、通常のタッピングのようにプリングやスライドを使わないことも特徴と言える。指を指板に叩き付けるため、サウンドがスラップ音に近くなるので、ベース独特の雰囲気が出せるだろう。ポジション移動は、横ではなく縦の動きが主体になることもポイントになるので、覚えておいてもらいたい。

実際に左ページのエクササイズ・フレーズを弾いてみると、わざわざボスハンドを使用しなくても、通常のフォームのタッピングで十分に演奏できるのではないかと疑問に思う読者もいるだろう。では、なぜそうしないのか？ 答えはミュートのためである。上下の弦移動が激しいタッピング・フレーズを、通常のフォームでミュートをしっかり掛けながら演奏するのはかなり大変だ。しかし、ボスハンドは、左手の使っていない小指がベースのヘッド側に向くため、小指を使って余弦のミュートができるのだ(写真①&②)。ボスハンドに慣れて、小指のミュート・コントロールが自由自在にできるようになれば、サウンドのダイナミクスも調整可能【註】になるので、まさに一石二鳥！松竹梅フレーズを活用しながら、まずはメイン・フレーズの1小節目をくり返し練習してみよう(写真③~⑧)。



① 小指が離れるとミュートが上手にできない。



② 左手小指が余弦に触れて、しっかりミュートができる。



③ 1弦目は1弦16fのタッピング。右手は2本指で叩く。



④ ピアノを弾くように、左手人差指で1弦12fを叩こう。



⑤ 2弦に移動して、16fを右手でタッピング。



⑥ これまでと同じ流れで、左手人差指で2弦12fを叩く。



⑦ そして、3弦16fを右手でタッピングして……



⑧ 左手人差指で3弦14fを叩こう。

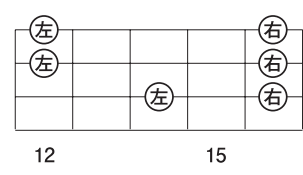
注意点2 理論

ポジションを頭に入れて 指を滑らかに動かそう

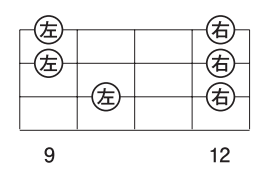
ボスハンド・タッピングは、左手の小指でミュートを掛けられるため音切れが良く、また指を大きく振り上げられるので力強く発音できる。ただし、ミス・タッチ対策をしっかり取らないと、ノイズも発生しやすいので注意しよう。メイン・フレーズのポジションは、右手は一定だが、左手は細かく変化する(図1)。まずは左手のポジションをしっかり覚えることが大切だ。また、両手とも1回タッピングするごとに弦移動していくので、指先と手首を素早く上下運動させるように心掛けよう。そのためには、普段からフィンガリング力を強化することが必至だ。

図1 メイン・フレーズのポジション

・ 1&2小節目



・ 3&4小節目



左手は、3弦のみポジションが変わるということを認識しておけば、覚えやすいだろう。

【サウンドのダイナミクスも調整可能】速く弾けることはもちろん、フレーズの流れに合わせてニュアンスのコントロールができてこそ、真の超絶ベーシストと言えるのだ。細やかな表現力も養われ！